

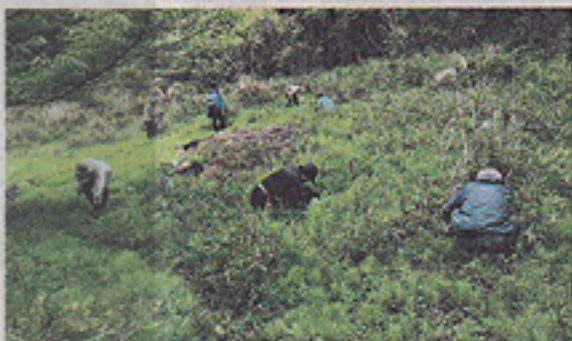
今ある自然残したい

28日開園

鎌倉市の貴重な自然を守ろうと活動する市民に支えられ、市が土地の買い取りと整備を進めてきた都市公園「山崎・台峯緑地」(山崎など)の工事がほぼ終わり、二十八日に開園式が開かれる。緑地の手入れを続けている住民らは「五十年、百年後の人たちに『良かったね』と言ってもらえたら」と未来を見据える。

(石原真樹)

鎌倉「山崎・台峯緑地」



山崎・台峯緑地で雑草を刈る市民ら＝鎌倉市で(「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」提供)

山崎・台峯緑地は鎌倉中央公園の東側約二七・五％。自然林と人工林がモザイク状に混じり、ため池「谷戸の池」の周辺には湿地が広がる。さ

まざまな野鳥や昆虫が生息する。山崎・台峯緑地では一九七〇年代に大規模な宅地開発計画が持ち上がったが、保全を求める住民運動を経て、二〇

〇四年に市が保全を公表。市民の寄付金を含む市の予算三十六億円と国の補助金を合わせて計五十四億円で土地を買収し、池のしゅんせつや散策路の柵など整備を進めてきた。買収が済んでいない土地も一部残るが、主な工事が先月終わり、開園を迎える。

同基金元理事の久保広晃さん(左)も「現場を一番歩いている人間の提案だから信用してもらった」と振り返る。「歩く」は団体の初代会長、精神科医のなだいなださんの教えだ。「歩く」は精神にいい、共に肩を並べて歩こう、と。足並みが自然にそろった」

都市公園といいつつ、今ある自然を残して最低限の整備にとどめたのが特徴だ。「市民の熱い思いを市職員がきちんと受け止めてくれ、共働できたのが大きい」。保全に取り組んできた「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」(元NPO法人、二月に解散し現在は任意団体)の出口克浩元理事長(右)は実感を込める。

同基金では山歩きと手入れを毎月実施している。詳しくはホームページ＝<http://www.kitakamakura-dai-mine-trust.org/>。開園式は午前十時から北管理事務所前であり、テープカットが行われる。



①山崎・台峯緑地と鎌倉中央公園(鎌倉市提供、一部加工)
②「市民と市が折り合いをつけながら協力できた」と話す(左から)出口さん、久保さん、石山さん＝鎌倉市で



市が保全を公表した後、同基金を含む八つの市民団体と市の担当者で、整備に向けて話し合う連絡会が立ち上がった。スロープの設置などを考える市に対し、市民側は「できるだけ今のままで」「木道など人工物は要らない」と訴えた。会議で険悪な空気も漂ったというが、市の担当職員だった石山由夫・鎌倉風致保存会常務理事(左)は「一緒に

先人たちの運動や思い後世に

市民と行政足並みそろえ 整備最小限

「先人たちの運動や思い後世に」